

中山間地における夏秋どりを目指した「さがほのか」の花芽分化早進化技術

第2報 定植後のクラウン部冷却の影響

○國枝栄二・畑瀬房次・浦田丈一

(佐賀農業セ三瀬分場)

【目的】

中山間地の夏期冷涼な気象条件および地域資源を活かした「さがほのか」の花芽分化促進技術について検討する。ここでは定植時期および定植後のクラウン部冷却の有無が第1次えき花房の生育に及ぼす影響について検討する。

【材料および方法】

1. 供試品種：「さがほのか」

2. 試験区の構成：1)2005年度；①透湿シート区，②クラウン部冷却区，③慣行区（無処理），2)2006年度；①クラウン部冷却6月21日定植区，②同8月7日定植区，③同9月4日定植区，④無冷却8月7日定植区，⑤無冷却9月4日定植区

3. 採苗時期：1)2005年度；5月上～下旬，2)2006年度；4月上～5月中旬（6月定植），5月下～6月中旬（8月および9月定植）

4. 育苗時短日処理：6月および8月定植株は育苗時短日処理により頂花房を分化させた。

5. 試験場所：標高400m、三瀬分場内・硬質フィルムハウス（間口6m，行き18m）

6. 耕種概要：1)高設栽培；シートタイプ，培地3.7リットル/株，2条植（畝幅30cm，株間20cm，6000株/10a）2)クラウン部冷却；長さ15m，2条植の高設栽培槽においてクラウン部に密着させた冷却管（直径19mm鉄管）に18.7±1.4℃の水を毎時130リットル通水，3)施肥；2005年度は適宜液肥により追肥，2006年度は基肥は緩効性被覆肥料（70日タイプ）N770mg/株を，追肥は適宜液肥を施肥

【結果および考察】

1. 2005年度：1)定植後クラウン部冷却株は栽培槽における透湿シートの使用や慣行の栽培法に比べ，年内における第1次および第2次えき花房の出蕾が10～14日早く揃いが良く，花房の連続性が最も安定した。また，収穫果数およびM(10-15g)以上の収量が多く，慣行株の1.4倍以上の商品収量が確保できた。2)年内の1果実重については，クラウン部冷却株が頂花房で12.7g，第1次えき花房で12.6gと他の処理に比

べ安定しており，平均では最も重かった。

2. 2006年度：1)6月21日定植では，頂花房が7月末に出蕾したが，第1次えき花房は10月中旬に出蕾し，クラウン部冷却を行っても花房の連続性はみられなかった（表2）。2)8月7日定植では，クラウン部冷却株は頂花房が9月中旬に出蕾後，第1次えき花房が10月下旬に出蕾し，花房が連続した。しかし，クラウン部無冷却株は第1次えき花房の出蕾が11月中旬になり，花房の連続性はみられなかった（表2）。3)9月4日定植では，クラウン部冷却株は頂花房が10月中旬に，第1次えき花房は11月下旬に出蕾し，クラウン部無冷却株との差はなかった（表2）。4)頂花房と第1次えき花房間の展葉日数は，6月21日定植が少なく，9月4日定植が多かった。また，8月7日定植では，クラウン部冷却株が無冷却株に比べ約1日多かった。花房間葉数は，花房の連続性がみられた8月7日定植クラウン部冷却株と9月上旬定植株が約3枚で，6月下旬定植株や8月7日定植クラウン部無冷却株に比べ少なかった（表3）。

表1 クラウン部冷却および透湿シート利用と花房の出蕾(2005年)

処理区	頂花房		第1次えき花房		第2次えき花房	
	月日	S.D	月日	S.D	月日	S.D
透湿シート	9/18	11.2	11/6	22.3	12/16	20.4
クラウン部冷却	9/15	4.5	10/26	12.0	11/30	8.8
慣行	9/13	10.8	11/9	19.6	12/16	15.8

注1. 採苗時期：5月上旬～下旬、育苗期短日処理開始：7月8日、定植：8月3日、クラウン部冷却：8月3日～9月23日

表2 定植時期、クラウン部冷却と花房の出蕾(2006年)

クラウン部冷却	定植(月/日)	頂花房		第1次えき花房	
		(月/日)	±S.D	(月/日)	±S.D
有	6/21	7/30	3.2	10/19	2.5
有	8/7	9/20	5.5	10/27	3.1
有	9/4	10/20	4.4	11/24	6.7
無	8/7	9/17	15.2	11/19	10.9
無	9/4	10/15	7.6	11/23	5.7

注1. 調査株数：各区12株、クラウン部冷却：6月6日～9月27日

表3 頂花房、第1次えき花房間の葉数(2006年)

クラウン部冷却	定植(月/日)	展葉日数(日/枚)	花房間葉数(枚±S.D)
有	6/21	9.2	8.8±0.9
有	8/7	10.9	3.4±0.5
有	9/4	11.1	2.8±0.5
無	8/7	9.7	6.3±0.7
無	9/4	11.5	3.3±0.9

注1. 調査株数：高設栽培12株